

国連大学グローバル・セミナー第2回島根・山口セッション
講義4

「宗教、宗教的過激主義、テロリズム」

池内恵（国際日本文化研究センター）

近年のテロリズムの現象に、宗教が深く関わっていることは日々の報道によってすでに広く知られていることである。しかし宗教がどのようにテロリズムに関係するかについては議論が分かれる。「宗教とテロリズムは無関係である」という主張もしばしば声高になされる。宗教とテロリズムの関係をどのようにとらえればよいのだろうか。この講義では、宗教とテロリズムの関係を考える際に必要となる基本的認識と、議論の分かれる主要な論点を整理したい。

I. 宗教はテロリズムの原因なのか？

「貧困」がテロリズムの原因か？

「グローバルな政治経済体制」がテロリズムの原因か？

宗教が原因であるとすればどのような形で原因となっているか

II. 諸宗教の多様性、宗教の多面性

「宗教」概念の多様性

律法と霊性

内面的信仰と社会的実践

宗教的自由主義・世俗主義とそれへの反論

「政教一致」と「政教分離」

現実の政教関係

宗教と「軍事」

「異教徒」との権力・支配関係

宗教と宗教的過激派の境界はどこにあるか

宗教的過激派とテロリズムはどう関係するか

III. オウム真理教とテロリズム

仏教と政治・軍事

日本の世俗化社会と宗教

豊かな社会と新宗教

IV. キリスト教原理主義とテロリズム

「本来の」キリスト教と政治・軍事

歴史上のキリスト教の発展と政教の接近

キリスト教と異教徒
近代のキリスト教解釈と原理主義の出現

V. イスラーム教とテロリズム

イスラーム教の歴史的成り立ちと政治・軍事
権力と支配
イスラーム教と異教徒
「ジハード」概念の検討
近代の宗教解釈の分極化
ジハードの平和的解釈と戦闘的解釈の並存

VI. 宗教的テロリズムへの対策とその困難

経済的な間接的対応：貧困対策はテロリズム対策になるか？
政治的な対策：民主化はテロリズム克服の道？
宗教思想の「教導」：情報操作の危険は？ 思想信条の自由は？
教育の向上：「教育」の内容・価値観によってはテロリズム支持にすらなりうる？

【参考文献】

「宗教とテロリズム」に関係する研究はまだ未発達であり、議論が大きく分かれる。「テロリズム」「宗教」のそれぞれについて学術的な定義に統一や安定性が乏しく、政治的立場によって、あるいは宗教的信念によって立場が全く変わってしまうからである。議論の叩き台として以下の書籍を挙げておく。

- ①マーク・ユルゲンスマイヤー『グローバル時代の宗教とテロリズム——今、なぜ神の名で人の命が奪われるのか』（立山良司監修、明石書店、2003年）
- ②ウォルター・ラカー『大量殺戮兵器を持った狂信者たち』（帆足真理子訳、朝日新聞社、2002年）
- ③ジェイソン・バーク『アルカイダ——ビンラディンと国際テロ・ネットワーク』（坂井定雄・伊藤力司訳、講談社、2004年）
- ④佐渡龍己『神のテロリズム』（かや書房、2003年）
- ⑤島田裕己『オウム なぜ宗教はテロリズムを生んだのか』（トランスビュー、2001年）

【さらなる読書のために】

必ずしも常に「テロリズム」に帰結するわけではないが、現在のテロリズムを含む紛争に大きく関係しているイスラーム教の「ジハード」理念については、次の専門的な入門書がバランスが取れている。David Cook, *Understanding Jihad*, Berkeley, University of California Press, 2005. ジハード理念を重要な要素として20世紀を通じて発展した様々な政治運動については、ジル・ケペル『ジハード——イスラム主義の発展と衰退』（丸岡高弘訳、産業図書、2006年）に詳しい。